



新しいお札の見本。裏面の絵柄が変わり、数字も大きくなっています



7月に変わるお札

野口英世から北里柴三郎へ。今年7月3日、千円、5千円、1万円のお札が新しくなります。表、裏に描かれている人物や図柄のデザインが変わり、偽のお札を作らせないための最新の技術が使われます。どんなお札になるんでしょう？

お札は、日本銀行が発行する紙のお金（紙幣）で、正式には「日本銀行券」と言います。明治時代の1885年に最初のお札ができてから、時々デザインが変わって来ます。今回は2004年以来、20年ぶりのリニューアル。7月以降も、

新しいお札の見本。裏面の絵柄が変わり、数字も大きくなっています



描かれる人物

今のお札	→	新しいお札
福沢諭吉 (思想家)	【1万円】	北里柴三郎 (微生物学者)
樋口一葉 (作家)	【5千円】	津田梅子 (教育者)
野口英世 (細菌学者)	【千円】	北里柴三郎 (微生物学者)

ハイテク詰め込み偽造防止

どんな技術？

新しいお札は、見る角度によって顔の向きや図柄が変わる「3Dホログラム」という技術が世界で初めて使われます。光にかざすと絵が浮かび上がる「すかし」の部分、人物の周りにとても細かい模様が描かれます。

お札は紙、コインは金属でしかありません。それでも、みんなが1万円札を使うのは、その紙に「1万円の価値がある」と信じているから。価値があると信じられるには、お金が本物でなければなりません。偽札が広まると、社会が混乱する恐れがあります。そのため、お札には、偽造防止の技術が詰め込まれています。

なぜ変える？

夫もします。数字を大きくし、すかしの形や位置も金額ごとに変えるので、見分けやすさがアップ。お札の種類によって違う位置にざらざらしたマークを付け、目が不自由な人も手触りで区別しやすくなります。

最近、電子マネーやクレジットカードで支払いをする人が増えています。お札やコインなどの現金がいなくなる「キャッシュレス化」の時代に、なぜ紙のお金を新しくする必要があるのでしょうか。

日本銀行名古屋支店（愛知県名古屋市中区）によると、現金は「誰でもいつでも安心して使える」お金。現金を使う人はまだまだ多く、ただちに紙幣がなくなることにはなさそうです。また、災害などでキャッシュレスの支払いができなくなると、現金の必要性はぐっと高まります。

日本よりキャッシュレス化が進んでいる海外の国でも、現金はまだ使われています。紙幣は新しくなっています。日本銀行は「より偽造されにくいものにしていくために、新紙幣の発行は必要」と説明しています。

石川・能登地方で震度7

1日午後4時10分ごろ、石川県北部の能登地方を中心に大きな地震がありました。気象庁によると、石川県志賀町では、揺れの強さを示す階級で最も大きい震度7を観測。地震の規模を示すマグニチュード（M）は、1995年の阪神大震災を上回る7.6でした。石川県珠洲市や輪島市などでは建物が崩れ、観光地の「輪島朝市」周辺で店舗や住宅200棟を焼く火災が発生＝写真。70人以上が亡くなり、行方不明の人もあります。能登半島では2020年12月から地震が続いており、今回も3日間で500回以上の余震が起きています。

日航機と海保機が衝突

東京都内の羽田空港にある滑走路で2日、日本航空と海上保安庁の飛行機が衝突する事故がありました。着陸直後だった日本航空の機体が燃え上がる中＝写真、乗っていた乗客や乗員379人は全員、脱出しました。海上保安庁の機体に乗っていた6人のうち、機長は重傷を負い、5人が死亡。能登地方の地震の被災地へ支援物資を運ぶため、新潟県の基地へ向かうところでした。飛行機に離着陸の許可や指示をする管制官の記録と、海上保安庁の機長の証言が食い違っており、警視庁などが事故の原因を調べています。

2024年問題

今年4月に法律が変わり、トラック＝写真＝の運転手や建設業者、医師などの働く時間に上限ができることをきっかけに起きる問題のこと。特にトラックで荷物を運ぶ会社は、運転手がより多く必要になり、今まで通り荷物を運べなくなるのでは、と心配されています。

もともとトラック運転手は、決められた時間を超えて働く「残業」に制限がなく、働く時間が他の仕事に比べて長くなっていました。運転手を雇う会社や政府は、働く環境を良くしつつ、より効率的に荷物を運ぶ方法を考えなければいけません。

